

調査研究

すべての美術館事業の土台は調査研究にある。国内外の写真史・映像史・美術史や写真論・映像論・美術論の成果を踏まえ、また、社会学やメディア論などの他分野とクロス・オーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向けて、国際的な視点にたった調査研究を行い、その成果を展覧会や収集事業、普及事業等に反映すべく、学芸員ひとりひとりが日々努力している。

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

・「<私>から<歴史>へ：森村泰昌の20世紀神話」『森村泰昌・なにものかへのレクイエム 戦場の頂上の芸術』展図録、東京都写真美術館・豊田市美術館・広島市現代美術館・兵庫県立美術館、2010年、p.p. 68-69

岡部友子

・「封印の解かれたスナップショット 北島敬三1975-1991」『北島敬三1975-1991』展図録、産経新聞社2009年、p.p. 178-183

岡村恵子

・「躍動するイメージ。石田尚志とアブストラクト・アニメーションの源流」『映像をめぐる冒険vol.2 躍動するイメージ。石田尚志とアブストラクト・アニメーションの源流』図録、東京都写真美術館、2009年、p.p. 50-59

・「第2回総合テーマ 歌をさがして」『第2回恵比寿映像祭 歌をさがして』図録、東京都写真美術館、2010年

笠原美智子

・「なさない男たちのための鎮魂歌」『森村泰昌・なにものかへのレクイエム 戦場の頂上の芸術』展図録、東京都写真美術館・豊田市美術館・広島市現代美術館・兵庫県立美術館、2010年、p.p. 71

金子隆一

・「異境へのまなざし」『旅する写真』（平成21年度収蔵展「旅」展図録）、旅行読売出版社、2009年、p.p. 9-15

・「心の眼——稲越功一の写真」ノート『Mind's Eye 心の眼 稲越功一の写真』（「心の眼——稲越功一の写真」展図録）、求龍堂、2009年、p.p. 133-135

・「東洋と西洋のまなざし、その相違と相似」『木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン』展図録、東京都写真美術館、2009年、p.p. 9-15

神保京子

・「旅人は巡る——写真家たちの「ディスカヴァー・ワールド」」『旅する写真』（平成21年度収蔵展「旅」展図録）、旅行読売出版社、2009年、p.p. 109-117

鈴木佳子

・「展覧会開催にあたって」『プレス・カメラマン・ストーリー』展図録、東京都写真美術館、2009年、p.p. 146-p.147

丹羽晴美

・「マイ・グランドマザーズ—共鳴する記憶」『やなぎみわ マイ・グランドマザーズ』淡交社、企画・編集 東京都写真美術館／国立国際美術館、2009年、p.p. 57-63

・「生きとし生けるものの未来へ—起源を探るセバスチャン・サルガドの写真」『セバスチャン・サルガド アフリカ』展図録、朝日新聞社、2009年、p.p. 122-126

藤村里美

・「9人の旅人の軌跡」『旅する写真』（平成21年度収蔵展「旅」

展図録）、旅行読売出版社、2009年、p.p.59-65

・「遠くへいきたい」『日本の新進作家展 VOL.8出発—6人のアーティストによる旅』展図録、講談社、2009年、p.p.14-30

三井圭司

・「懐古と写真」「多角的視覚報道という事件」『ジョルジュ・ビゴー展 碧眼の浮世絵師が斬る明治』展図録、東京都写真美術館、2009年、p.p. 42-43、p.p. 58-61

【東京都写真美術館紀要No.9】

伊藤貴弘（インターン）

・「Quiet Observation—ヴェネツィア・ピエンナーレのヴォルフガング・ティルマンズ」

神保京子

・「大戦間のチェコにおけるシュルレアリスム運動の展開と特質：Surrealism in the Czech Republic Between the Two World Wars : Its Progression and Characteristics」

中村浩美

・「Creative Economies : Asia-Europe Emerging Photographer's Forum」の行方、ASEF (Asia-Europe Foundation) の取り組みと課題」

山口孝子

・「燻蒸処理による写真画像への影響と長期保存性の検証」¹⁾

・「再燻蒸による写真画像およびゼラチンバインダーへの影響」²⁾

*川真田敏明（千葉大学工学部）¹⁾、柴史之・大川祐輔（千葉大学大学院融合科学研究科）との共同研究^{1) 2)}

【論文等】

石田留美子

・展評「中国現代美術との出会い」展（栃木県立美術館）、第9号イメージ&ジェンダー研究会誌、イメージ&ジェンダー研究会、2010年3月、p.p. 113-114

岡部友子

・「オノデラユキの迷宮」『版画芸術』2009冬号 No.146、阿部出版、p.p. 95

岡村恵子

・「映像表現の入門編『ビデオを待ちながら』展」東京新聞（夕刊）、2009年5月8日7面

・「視覚と知覚のすれを埋める『W・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える』」東京新聞（夕刊）、2009年10月2日7面

・「躍動するイメージ。石田尚志とアブストラクト・アニメーションの源流」[連載] SANKEI EXPRESS、2010年1月17日31面／1月18日31面／1月19日31面／1月20日31面／1月21日31面／1月22日31面／1月23日31面

笠原美智子

・"On Your Body: Contemporary Japanese Women Photographers", *Eikon, International Magazine for Photography and Media Art*, #67, 2009, p.p. 32-41

・「高松コンテンポラリーアート・アニュアル Vol.00」によせて、現代アートのアニュアル展はなぜ必要か『高松コンテンポラリーアート・アニュアル Vol.00—時をつなぐビジョン—』展図録、高松市美術館2009年、p.p. 39

・"Gender Issues in Contemporary Japanese Art",

Post Gender: Gender, sexuality and performativity in Japanese culture, edited by Ayelet Zohar, Cambridge Scholars Publishing, 2009, p.p. 40-49

金子隆一

・著書『日本写真集史1958-1986』（共著）アイヴァン・ヴァルタニアン、赤々舎、2009年、*Japanese Photobooks of The 1960s and 1970s*, with Ivan Vartanian, Aperture Inc., 2009

・展評「高梨豊：光のフィールド・ノート」『写真空間』第3号、青弓社、2009/5

・書評「『スクラップブック アンリ・カルティエ＝ブレッソン写真帖1932-1946』を読む」『週刊読書人』2009年6月26日号

・「紡ぎ出される物語」鈴木龍一郎『リュリシーズ』、平凡社、2009年

鈴木佳子

・「心に残る一枚 第11回 船山克 榛名湖」東商新聞、2009年5月20日

中村浩美

・「Dive into the "Creative World", text for "Creative Economies: Asia-Europe Emerging Photographers' Forum 2009 Kuala Lumpur" organized by ASEF (The Asia-Europe Foundation), Kuala Lumpur, Malaysia, May 10th-18th, 2009

・「魔法瓶と給水塔：忘れられたオモチャの魔法」、『バグダッド・カフェ<ニュー・ディレクターズ・カット版>』カタログ、IMAGICA TV刊、2009年

・「肖像という風景に向かって：Contemporary Photographers, Towards Human Landscape」、・「荒木経惟：アラキズムの集大成<日本人ノ顔>プロジェクト」、『装苑<写真の教室：Photography School>』、文化出版局刊、2009年12月号 p.p. 90-91, 96

・「メイプルソープとコレクター Black, White + Gray: A Portrait Of Sam Wagstaff + Robert Mapplethorpe」、『装苑』、文化出版局刊、2009年4号p.p. 88-89

丹羽晴美

・「マイ・グランドマザーズから聴こえる声」、『国立国際美術館誌』、国立国際美術館刊、2009年6月号 p.p. 4-5

・梅津禎三、丹羽晴美 誌上対談「メイプルソープからサルガドまで—海外写真家の写真展開催について語る」、『日本写真協会会報』通巻439号第84巻、社団法人日本写真協会刊、2009年11月1日、p.p. 2-7

藤村里美

・「夢に染土を求めたり—前衛写真と報道写真の狭間で」『近代の東アジアイメージ』展図録、豊田市美術館、2009年、p.p. 15-16

・「展評'10 フォトケ2009」、『アサヒカメラ』、朝日新聞出版、2010年1月号、p.p. 202-203

三井圭司

・「パノラマ写真考—モノとしての古写真」『Photographer's gallery press No.8』、Photographer's gallery、2009年4月、p.p. 265-279

山口孝子

・白岩洋子、山口孝子、「ダグレオタイプハウジングの修復—東

京都写真美術館コレクションより」、『日本写真学会誌』第72巻3号、(社)日本写真学会、2009、p.p. 214-219

・「2008年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第72巻3号、(社)日本写真学会、2009、p.p. 174-175

【学会発表等】

石田留美子

・講演会「アジアにおける写真・映像アーカイブの発展と現状～やなぎみわ、志賀理江子に見る日本の写真表現について～」、中国/北京日本文化センター、2009年8月14日

・研究発表「中国の現代アート—オリンピック以前以後」イメージ&ジェンダー研究会 特別研究会「現代アジアにおける女性のアート」、福岡アジア美術館、2009年11月22日

伊藤貴弘（インターン）

・「歩くことで見える風景—尾仲浩二と村越としやのく地方>写真について」ASLE-Japan/文学・環境学会、財団法人キープ協会 清泉寮本館、2009年8月30日

・明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻デジタルコンテンツ系主催 王子直紀写真展「川崎」レクチャー&トーク、明治大学生田図書館 Gallery ZERO、2009年11月9日

笠原美智子

・講演会「ジェンダーとメディア」女性の働き方を考える会、港区男女平等参画センター・リーブラ、2009年2月28日

・キングストン大学・ロンドン—京都精華大学・京都 公開シンポジウム「介入の芸術：個人の記憶、公共の記憶、その交差点へ—未来のラブソング」、京都精華大学、2009年11月21日

・「Contemporary Japanese Women's Self-awareness in the Works of Japanese Contemporary Art and Photography」, "Gender and Body in the Contemporary Arts", Workshop organized by Institute of East Asian Art History, University of Heidelberg, Heidelberg, Nov. 16 and 17, 2009

・「現代美術に表された女性像」社会教育講座「美術作品に描かれた女性像から見えるもの」目黒区立東山社会教育館、2010年2月10日

・対談「石内都×笠原美智子 写真表現…女性が撮ることの意義」PERFE/女性と表現の会、世田谷区三軒茶屋キャロットタワー4階、2010年3月20日

金子隆一

・講演「写真事始—写真という言葉をめぐる」川崎市市民ミュージアム、2009年4月29日

・講演「アマチュア写真家と報道写真」デザイン史学会主催シンポジウム「写真×プロパガンダ×デザイン」埼玉県立近代美術館、2009年7月25日

・講演「野島康三と『光画』」京都国立近代美術館、2009年8月22日

・講演「ライカの身体性について」大阪芸術大学芸術研究所主催シンポジウム「ライカと写真」、大阪芸術大学、2009年10月14日

・早稲田大学メディア・シティズンシップ研究所主催シンポジウム「つくば写真美術館再考—美術品（アート）としての写真を問い直す」早稲田大学、2009年1月31日

鈴木佳子

・トークショー、モデレーターとして「アンディ・サマーズ写

真展 Desirer Walks the Streets」BLDギャラリー、2009年4月4日

・公開講座「ヴィジュアルアメリカ アメリカのソーシャル・ドキュメンタリー写真を中心に」群馬県立女子大学、2009年7月21日

・スライド+トークショー「中村ハルコ写真展 海からの贈り物」ビジュアルアーツ・ギャラリー・東京、2009年8月29日

・トークショー「萩原義弘写真展SNOWYⅢ 萩原義弘×鈴木佳子」ギャラリー冬青、2009年12月4日

中村浩美

・"Sweet & Bitter: The Intimate Mirror of Contemporary Japanese 'Girl' Photography", lecture for Asia-Europe Emerging Photographers' Forum 2009 Kuala Lumpur" organized by ASEF, Kuala Lumpur, Malaysia, May 12th, 2009

・"In & Out of Tokyo: Tokyo Seen by Magnum Photographers from 1950s to the Present", lecture for Asia-Europe Emerging Photographers' Forum 2009 Kuala Lumpur" organized by ASEF, Kuala Lumpur, Malaysia, May 14th, 2009

藤村里美

・講演会「『Voyages』展記念講演会『日本の旅写真の系譜』、パリ日本文化会館、2009年10月15日

三井圭司

・講演会「『モダン福生写真展 昭和20年～63年』記念講演会『日本の写真 渡来の頃について』」、福生市郷土資料室、2009年3月14日

・講演会「写真史から見る田本研造」、函館圏文化芸術活用事業「文化と編纂」、函館市地域交流まちづくりセンター、2010年1月9日

山口孝子

・「役に立つ写真保存の基礎知識」、2009年度(社)日本写真学会年次大会、日本写真学会、東京工業大学 すずかけ台キャンパス、2009年5月27日。

・「コロタイプ印刷の画像保存性」、2009年度(社)日本写真学会年次大会、日本写真学会、東京工業大学 すずかけ台キャンパス、2009年5月28日 高橋則英・大川祐輔との共同研究

【非常勤講師等】

岡村恵子

・桜美林大学総合文化学科総合文化学群「アートマネージメント論」2009年春学期集中講義

・首都大学東京都市教養学部都市教養学科人文・社会系「表象言語の諸問題：現代美術のパフォーマンス性」2009年前期

・東京造形大学芸術課程「ゲスト講義」2009年5月16日

笠原美智子

・明治学院大学大学院文学研究科芸術学専攻「美術史特別講義Ⅲ」2009年前期・後期

・東京大学大学院講義「展覧会評価」2009年7月7日

金子隆一

・東京総合写真専門学校「合評演習」通年

・武蔵野美術大学芸術文化学科「写真論Ⅰ」前期、「写真論Ⅱ」後期

・武蔵野美術大学映像科大学院「写真特論Ⅱ」通年

神保京子

・明治大学法学部講義「東西美術史」、2009年12月16日／2010年1月20日

丹羽晴美

・学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流・美術」2009年前期

・法政大学国際文化学部「写真論」、「身体表象論」2009年後期

藤村里美

・武蔵大学「ヨーロッパの芸術」2009年前期

三井圭司

・明治学院大学「写真史写真理論研究」2009年前期・後期

山口孝子

・東海大学課程資格教育センター「博物館学実習Ⅰ写真技術」、春・秋学期集中講義

・東京文化財研究所、保存担当学芸員研修、「劣化と保存 各論－写真－」、2009年7月23日

・京都工芸繊維大学、「科学と芸術の出会いⅡ」、2009年12月25日

【委員・審査員等】

笠原美智子

東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)、東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員(写真部門)、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林忠彦賞選考委員、東川賞審査員(東川町)、ヒロシマ賞候補作家推薦委員(広島市)、財団法人五島記念文化財団五島記念文化賞美術新人賞候補者推薦委員、nominator for the Prix Pictet Award、公益信託タカシマヤ文化基金「タカシマヤ美術賞」候補者推薦委員、コニカミノルタ・フォト・プレミオ選考委員

金子隆一

(社)日本写真協会理事、日本写真芸術学会理事、文化審議会専門委員、松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員、東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員(写真部門)、高浜市やきもの里から美術館運営審議会委員、横浜市美術資料収集審査委員、芸術選奨推薦委員、第5回名取洋之助写真賞審査員

丹羽晴美

福島市写真美術館企画専門委員、社団法人日本広告写真家協会公募展審査委員

中村浩美

Nominator for the Fotobook-Festival Kassel in a special exhibition, 15th - 17th May, 2009, Kassel, Germany

Facilitator for "Creative Economies: Asia-Europe Emerging Photographers' Forum", National Art Gallery Malaysia, 11th-18th May, 2009, Kuala Lumpur, Malaysia

Curator for "Creative Economies: Asia-Europe Emerging Photographers Exhibition", Annexe Gallery, 16th -23rd May, 2009, Kuala Lumpur, Malaysia

三井圭司

横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者審査委員

山口孝子

日本写真学会編集委員、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真学会年次大会実行委員

インターン受入

東京都写真美術館では平成20年度よりインターン制度を導入した。1年間、指導学芸員と共に美術館のスタッフとして展覧会や普及事業、広報事業等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材の育成に寄与することを目的としている。第2期となった平成21年度のインターン生および担当業務は以下のとおりである。

天野圭悟

担当業務：教育普及事業、展覧会補助
 各種ワークショップ実施、スクールプログラム補助、講演会補助、作品データ制作補助、
 「夜明け前 知られざる日本写真開拓史」展補助
 指導学芸員：石田哲朗・石田留美子

伊藤貴弘

担当業務：展覧会補助
 「コレクション展 旅」展補助、
 「新進作家展vol. 8 出発—6人のアーティストによる旅」展補助、
 「北島敬三1975-1991」展補助、作品データ制作補助
 指導学芸員：藤村里美

大澤紗蓉子

担当業務：展覧会補助
 第2回恵比寿映像祭補助
 指導学芸員：岡村恵子

西野みなみ

担当業務：展覧会補助
 「やなぎみわ マイ・グランドマザーズ」展補助、
 「セバスチャン・サルガド アフリカ」展補助、「ブリューメンフェルド」展準備補助、作品データ制作補助
 指導学芸員：丹羽晴美

東聡子

担当業務：広報事業補助
 「プレス・カメラマン・ストーリー」展フロア・レクチャー実施、
 「あ・ら・かるちゃー 渋谷、恵比寿、原宿」事業補助、プレス・ギャラリー・ツアー補助、美術館オリジナル・カレンダー制作、「お正月開館」事業補助、作品データ制作補助

指導学芸員：鈴木佳子

広報事業指導：久代明子

セシル・ポワンブフ

担当業務：展覧会補助
 「オノデラユキ」展補助、作品データ制作補助、
 作品管理補助、木村伊兵衛寄贈候補作品調査
 指導学芸員：岡部友子

広報事業

開館14年目の平成21年度は、お客様、記者、学芸員、地域などがより親密な関係が築けるよう、広報面でも「交流を拡げ、つながりを強める美術館」を実践した。

- 1 広報誌「写真美術館ニュースeyes (アイズ)」発行 (vol.62～vol.65) 発行部数：各30,000部
＜巻頭記事＞
62号「北島敬三1975-1991」
63号「セバスチャン・サルガド アフリカ」
64号「森村泰昌：なにものかへのレクイエム」
65号「古屋誠一 メモワール。」



ニュース62～65号表紙

2 ホームページの活用

平均アクセスは40万超PVで平均的に推移し、22年1月には613,628の最高月間PVを達成した。新着情報を頻繁に更新し、強調すべき内容を短期集中的に告知した。館運営ミッションや年報の全ページ公開、外部評価の公表など、写真美術館の活動全般にかかわるコンテンツも継続して公開した。学芸員のブログページも好評で、館の新しい情報を日記的な表現で親しみやすく公表した。年間を通して展覧会と館に関連した検索キーワード広告を出稿しアクセスを促した。また、第2回恵比寿映像祭のホームページも刷新した。



第2回恵比寿映像祭ホームページ <http://www.yebizo.com>

3 プレスリリース作成・発送およびプレス取材対応

リリース数は各回約670件。また、電話・FAX・メールでの記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録・オンエアーの立ち会いなどをおこなった。

4 チラシ・ポスターの配付

マスコミ、美術館、写真、教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付。展覧会毎にターゲットを絞った配布先を増やし、配付を強化した（各回約300件）。

5 懸垂幕、壁面スペースへの掲出

JR恵比寿駅側の懸垂幕、壁面スペースへの掲出や、恵比寿ガーデンタワー側の巨大写真掲出および縦位置壁面スペース（3枚）の利用で、写真美術館の活動やイメージを発信した。



館ディスプレイシート掲出例

6 広告スペースへの掲出

(1) 交通広告

年間を通じて首都圏JR・地下鉄の窓上広告、JR恵比寿駅東口改札内柱広告、恵比寿スカイウォーク入口電飾広告、恵比寿スカイウォーク内電飾広告、恵比寿スカイウォークパナーを行った。



恵比寿スカイウォーク内電飾広告掲出例
(掲載期間：2010/2/29-5/10)



恵比寿スカイウォークバナー広告掲出例
(掲載期間：2010/3/10-3/16)



表参道駅広告掲出例
(掲載期間：2010/2/15-2/21)

(2) 新聞広告

展覧会やイベントを広く告知するために、新聞広告を掲載した。出稿は下記の通り。

(ア) 「旅 第1部」

朝日新聞平成21年6月10日(水) 東京本社版夕刊
(約210万部)

アート欄下 7段1/5モノクロ

(イ) 「北島敬三1975-1991」

朝日新聞平成21年8月26日(水) 東京本社版夕刊
(約210万部)

アート欄下 半5段

(ウ) 「旅 第3部」

朝日新聞平成21年10月7日(水) 東京本社版夕刊
(約210万部)

アート欄下 半5段

(エ) 「木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソン」

朝日新聞平成21年11月25日(水) 東京本社版夕刊
(約210万部)

アート欄下 半5段

(オ) 「お正月特別開館」

朝日新聞平成21年12月31日(木) 東京本社版朝刊
(約330万部)

5段1/4 (記事下)

読売新聞平成21年12月31日(木) 東京本社版朝刊
(約580万部)

5段1/4 (記事下)

(カ) 「開館15周年」

朝日新聞平成22年1月20日(水) 東京本社版朝刊
(約330万部)

全12段カラー



「北島敬三 1975-1991」掲載広告



「開館15周年」掲載広告

(3) アドカード (ポストカード型広告)

「セバスチャン・サルガド アフリカ」アドカード

平成21年10月8日(木) ~30,000枚

アドカード媒体および都内illy、プロント各店で配布

7 記者懇談会の実施

(1) 記者懇談会①

平成21年5月29日(金) 17:00~18:00 1階創作室

出席者数：18社21名

<主なプログラム>

平成20年度事業実績報告(恵比寿映像祭実績を含む)

平成21年度展覧会の紹介

その他

(2) 記者懇談会②

平成22年1月29日（金）16:00～17:30

出席者数：20社24名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成20年度事業外部評価の報告について
平成21年度および平成22年度企画の紹介
平成21年度新規収蔵作品の紹介

【第2部】2階作業室・3階作業室

平成21年度新規収蔵作品の実見
懇談（1階 カフェ シャンブルクレール）

8 プレス向けギャラリーツアー・記者会見の実施

主要収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日に、プレス向けギャラリーツアーを開催。学芸員と作家自身による展覧会説明を積極的に行った。「森村泰昌：なにものかへのレクイエム」展では事前の記者会見を開催した。



「プレス・カメラマン・ストーリー」
プレスツアー



「北島敬三1975-1991」プレス
ツアー



「セバスチャン・サルガド」プレスツアー



「森村泰昌：なにものかへのレクイエム」
記者会見2010/2/8 1階ホール、創作室



9 年始特別開館

平成22年の年始特別開館では、1月2日は入場無料、3日は割引料金を設定した。期間中（1月2日～3日）は、特別フロアレクチャーや雅楽コンサート、プレゼントなどを用意し、来館者が一日をとおとして美術館で楽しく過ごせるように工夫した。



お正月開館告知（JR恵比寿駅）



お正月開館風景 2010/1/2（しゃ
び雅楽）



お正月開館風景 2010/1/2
（木村・レッスン展フロアレクチャー）

10 他施設との連携

恵比寿映像祭×恵比寿ガーデンプレイス タイアップキャンペーン

実施期間：平成22年2月19日（金）～2月28日（日）

実施店舗数：20店舗

11 ホームページの刷新

平成22年度の開館15周年にあわせホームページの刷新作業を行った。公開は平成22年4月を予定。

我が国最初の写真の保存・修復に関する当研究室では、写真保存用包材、修復用材料などの写真適正試験をはじめ、各種写真の保存条件、展示照明条件などの最適化研究を行っている。また、画像劣化原因の排除、劣化画像の復元処理などを含めた保存科学全般にわたる調査研究を進めている。

1. 今年度の研究内容

千葉大学、日本大学、便利堂（協力）の共同実験として、コロナタイプ印刷の耐光性および長期保存性、つまり、光によって色褪せる「明退色」と、保存温度に依存する「暗退色」において検証し、2009年度日本写真学会年次大会にて報告した。

コロナタイプ印刷は、長く文化財の再現に利用されてきたが、最近では、インクジェットプリントがその画像保存性が向上したことや、大判プリントが可能なことから、文化財複製に使われ初めている。画像保存性の評価には、上記の2条件以外の要素として耐オゾン性がある。今年度は、インクジェットプリントとの比較情報として、コロナタイプ印刷のオゾンガスによる画像経年劣化への影響を検討した。この実験結果については、文化財保存修復学会第32回大会にて報告予定である。

また、千葉大学との共同実験として、イメージング分光情報に基づく古写真彩色材料の解析法について検討した。写真資料を含む文化財の保存・修復のためには、その構成材料を正確に把握する必要がある。この研究では、彩色鶏卵紙に使用されている色材に着目し、これを分光情報で特徴づけ・同定をすることを目的とした。モデル色材を用いて分光光度計やイメージング分光によって実測された反射スペクトルから、色材の吸収スペクトルを抽出する比較的簡単な方法を提案し、その妥当性を検証した。

この検証結果については、2010年度日本写真学会年次大会にて報告する。

2. 教育・普及活動

館内のみならず、外部からの写真保存に関する問い合わせに応じることも、当研究室の重要な業務となっている。問い合わせ内容および件数を図1に示す。乾板あるいはプリントが接着している場合の対処方法や化学修復の可能性など写真の保護処理や修復に関する内容の他、フィルムの保存やクリーニング方法についての問い合わせが寄せられた。これらは、写真が二次資料的扱いから見直されていることを示し、それと共に写真を収蔵している美術館や文書館などが、写真・フィルム・ガラス乾板の保存や保存環境の整備に着手し始め、数々の問題に直面しつつあると考えられる。

博物館学、学芸員研修、日本写真学会主催のセミナーや日本写真学会誌への執筆を通じて、写真保存の普及・教育活動をおこな

っている。

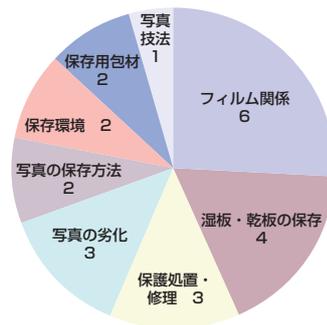


図1. 問い合わせ内容および件数

3. 収蔵作品の保存環境整備

毎年、購入・寄贈・寄託により作品が新たに収蔵される。そのため、新規収蔵作品の適切な収蔵処理、保存箱の作製は随時行っている。また、収蔵作品の保護処理、修復は継続している。今年度は台紙貼鶏卵紙1点の修理を行った。

また、収蔵庫・作業室・展示室の環境維持のため、29カ所に簡易計測紙を吊り下げ、毎月1回空気質のモニタリングを実施している。これは、コンクリートから放出するアルカリガス、あるいは木材等からの酸性ガスによる空気汚染をpH値で検討するためである。これによって、画像劣化原因になる有害ガスを放出する物質（塗料、糊、ダンボール等）の有無を確認する事が出来る。また、空調フィルター（酸性・アルカリ・有機酸除去）効果の持続性を知る手立てにもなっている。

展示替えやケミカルフィルタ交換時に簡易計測紙より正確なパッシブインジケータ®（酢酸・アンモニア）による検査を反映した、適正なケミカルフィルタの構成を行い、展示室・収蔵庫の空気環境を調整している。

また、作品劣化の重要な要素に光がある。当館では、作品保護の観点から、館内展示や貸出の日数、あるいは展示照度の管理をするために、写真技法ごとの最大年間累積照度を設定し、遵守している。

今年度は、中央監視設備の改修が行われ、展示室・収蔵庫の温湿度センサーおよびその解析ソフトが新しくなった。展覧会ごとに展示室内の壁の構成が変わり、空気の流れもそれに応じて変化する。従来は、局部的に温湿度が高くなっていった可能性もあった。改修後は、計測用センサーの取り外しが可能となったため、留意すべき場所への設置が可能となり、作品への展示環境の向上が期待できる。

今年度は次の台紙貼鶏卵紙1点の修理をおこなった。

・江崎写真館（資料番号10102535）

物理的な事故によって、鶏卵紙には約2cm程度の楕円状の破れがあり、その破損部は、台紙から剥離して皺状に折り畳まれた状態になっていた。また、鶏卵紙周囲には、部分的な糊離れによる浮きが認められた。さらに、台紙・鶏卵紙の暴れ（変形）が著しく、特に下辺部においては、縦方向に約3cm程度の断裂があり、これによって小口が押し合い変形を助長していた。

損傷部分の皺状に折り畳まれた鶏卵紙部分は、加湿して元の位置に伸ばし、接着剤を塗布して貼り戻した。断裂も同様の処置をした。鶏卵紙が台紙より糊離れしていた箇所については、隅の大きく浮いていた部分全てに糊挿しをして、再接着をした。また、台紙の紙層剥離箇所については、作品がシンクマットのブックマウントに収納されているため、台紙の暴れの影響がすぐに保存上の問題とならないと考え、今回は特に処置を行っていない。

●10102535（鶏卵紙）



本紙糊浮き箇所



処置前



処置後



剥離箇所の裏に接着剤を塗布して伸ばしながら貼り戻した。

損傷箇所周辺部の折り畳まれた箇所に湿りを与え、ピンセットで少しずつ伸ばした。周辺の崩れた箇所も湿りを入れた状態で押し戻して整えた。

剥離箇所の裏の裏の繊維を削り取って、台紙側に埋め戻し平滑に整えた。

図書室

写真・映像に関する専門図書室として、国内外で出版された写真集を中心に、評論、写真史・映像史、技法書、一般美術書、展覧会カタログ、専門雑誌、美術館ニュース、ちらしなどの収集、整理、保存を行い、一般に公開している。美術館活動を支援するための調査・研究に必要な資料・情報の提供も行っている。

平成17年4月よりインターネット上で蔵書検索（図書のみ）ができるようになり、平成19年1月より美術図書館横断検索ALC（Art Libraries' Consortium）へも参加している。さらに、平成20年4月からは、新システムの導入に伴い、国立情報学研究所（NII）の総合目録データベースNACSIS-CATにも書誌所在情報を提供している。

1. 収集

所蔵資料数

図書（冊数）

	購入	寄贈	合計
和書	7,905	14,743	22,648
洋書	8,169	2,940	11,109
合計	16,074	17,683	33,757

逐次刊行物（タイトル数）

和雑誌	958
洋雑誌	320
合計	1,278

2. 整理

当室ではシステムリプレイス後の平成20年度より、データ登録をはじめ受入より装備、配架にいたるまでの整理業務をすべて自館で行っている。

(1) 平成21年度登録冊数

	購入	寄贈	合計
和書	201	797	998
洋書	89	122	211
合計	290	919	1,209

	購入	寄贈	合計
和雑誌	515	1,632	2,147
洋雑誌	289	1	290
合計	804	1,633	2,437

(2) 遡及入力

平成20年度より遡及入力を随時行っている。

平成21年度遡及入力冊数は次のとおりである。

和書	1,946
洋書	208
合計	2,083

和雑誌	4,802
洋雑誌	2,035
合計	6,837

(3) 特別整理

平成22年2月9日（火）、10日（水）、12日（金）、16日（火）～18（木）、3月2日（火）～5日（金）の計10日間に蔵書点検を行った。（対象は図書のみ）

3. 保存

破損等のある資料の製本・修復（外部委託）をすることによりその保全を図った（466冊）。また、中性紙箱・保存用封筒等を活用し保存に努めた。

4. サービス業務

(1) 閲覧サービス

図書室は一般公開しているが、館外貸出は行っていない。資料は、閲覧室に設置したコンピューター2台で検索できるようにしている。（閲覧席20席）

平成19年10月より火・水曜日のみ受付時間帯を10：00～17：30とし、利用者サービスの向上に努めた。

(2) レファレンスサービス

写真、映像に関する図書資料についての質問および所蔵状況についての問い合わせに応じている。来室者からの問い合わせの他、電話、文書での問い合わせにも応じている。

これらの質問についての回答のうち、今後のサービスに役立つものは、記録票を作成し、ファイルして活用している。

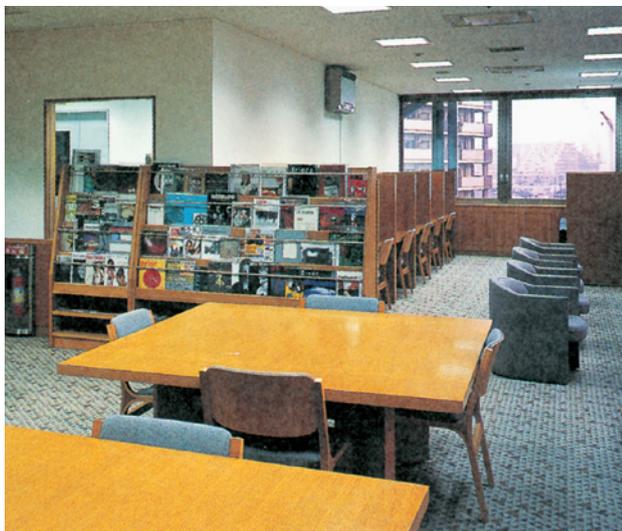
(3) 複写サービス

当室所蔵の資料について著作権の範囲内で複写サービスを行っている（モノクロのみ）。

(4) 図書の展示

「新着図書コーナー」、「展覧会関連図書コーナー」を閲覧室内に設け継続的に展示を行っている。展覧会関連図書リストを作成し、会場で配布している。展覧会ごとの展示冊数は下記のとおりである。

展覧会名	図書
プレス・カメラマン・ストーリー	25冊
「旅」第1部「東方へ 19世紀写真術の旅」	31冊
ジョルジュ・ビゴー展 碧眼の浮世絵師が斬る明治	18冊
「旅」第2部 「異郷へ 写真家たちのセンチメンタル・ジャーニー」	19冊
心の眼－稲越功一の写真	22冊
北島敬三1975-1991 コザ／東京／ニューヨーク／東欧／ソ連	15冊
「旅」第3部「異邦へ 日本の写真家たちが見つめた異国世界」	26冊
セバスチャン・サルガド アフリカ ～生きとし生けるものの未来へ～	18冊
日本の新進作家展 vol.8 「出発－6人のアーティストによる旅」	18冊
森村泰昌：なにものかへのレクイエム－戦場の頂上の芸術	22冊
ジャンルー・シーフ写真展	15冊



図書室内風景

5. 平成21年度利用統計

	開室 日数	入室 者数	出納 冊数	レファレン ス件数	コピー 枚数	Web版 OPAC 訪問数
4月	26	2,552	1,482	247	612	2,862
5月	28	2,724	1,645	267	808	2,971
6月	25	2,495	1,895	250	1,187	3,088
7月	27	2,959	2,310	284	1,481	3,291
8月	26	2,720	1,903	267	1,194	3,236
9月	27	3,003	3,085	305	1,228	2,773
10月	27	2,776	2,960	245	1,187	3,215
11月	25	2,711	1,993	300	1,947	4,229
12月	24	2,512	1,272	261	1,084	4,524
1月	24	2,782	1,724	299	1,455	3,783
2月	16	1,715	1,237	187	1,046	2,700
3月	22	2,214	1,627	222	1,062	2,939
合計	297	31,163	23,133	3,134	14,291	39,611
一日 平均	—	105	78	11	48	—

● その他

- (1) 展覧会への貸出は7件64冊であった。
- (2) 図書室への見学は22件、取材は3件あった。
- (3) 博物館学実習の一環として実習生12名、インターン生7名を受け入れた。
- (4) 中学生の職場体験カリキュラムの一環として2名を受け入れた。
- (5) 図書室利用者サービスに関するアンケート実施。
- (6) ALC参加館間でカタログ交換を実施した。



図書室展覧会関連図書コーナー

実験劇場

当館の新しいあり方を工夫するとともに館の活性化を図るための試みとして、平成12年度から将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品等写真美術館にふさわしい映画を、1階ホールで上映している。近年は、写真美術館の特色を示すため、「アート&ヒューマン」をテーマに作品を選定することに重点を置いている。

宣伝、告知に関しては、配給会社のネットワークにより、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、駅広告など幅広く告知するとともに、ターゲット層をねらったチラシ配布などで宣伝を行っている。

ゼラチンシルバーLOVE

上映期間：平成21年3月7日（土）～4月10日（金） 9日間（平成21年4月1日からの上映日数）

制作年：2008年 製作国：日本
監督・脚本・制作：緑上和美
配給：ファントム・フィルム

愛は撮るほどに奪われる。
無機質な部屋から向かいの女をビデオカメラで監視するカメラマンの男。男の部屋と運河を隔てた無機質な部屋で24時間監視され、ビデオで撮られる美しい女。見つめることしか許されない男は、触れてはいけない女に惹かれていく。90分のフィルムにやきつけられたのは、本能と性に翻弄される男と女の姿—



「東洋宮武が覗いた時代」

上映期間：平成21年4月11日（土）～5月22日（金） 37日間
制作年：2008年 製作国：日本
企画・脚本・監督：すすき じゅんいち
配給：フィルムヴォイス

強制収容所を記録した写真家、宮武東洋。日系人の歴史と真実に迫る感動のドキュメンタリー。

真珠湾攻撃から始まる太平洋戦争でアメリカ政府の敵視政策は強行なものとなり、1942年鉄条網と監視塔に囲まれた収容所にほとんどの日本人、日系人が収容された。10カ所の収容所に入れられた約12万人の半分以上がアメリカの市民権を持った人たちだった。この中に写真家・宮武東洋とその家族がいた。東洋は自ら隠し持ったレンズをもとに手製のカメラを作り、持ち込むことが禁じられたカメラはマンザナ収容所の実態を鮮明に記録していった。



ガマの油

上映期間：平成21年6月6日（土）～6月26日（金） 18日間
制作年：2008年 製作国：日本
監督：役所広司
配給：ファントムフィルム

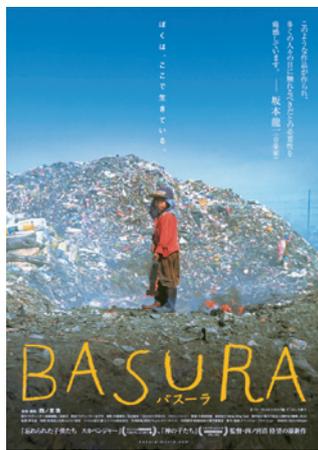
矢沢家はプール付きの豪邸に暮らす3人家族。1日に何億円も稼ぐ（自称）デートレーダーの拓郎（役所広司）、コロッケが得意な気立てのいいお母さん、輝美（小林聡美）、両親思いの優しい息子、拓也（瑛太）が幸せな生活を送っていた。ところがある日、拓也が交通事故にあってしまう。拓也の入院中、恋人の光（二階堂ふみ）からの電話に出てしまった拓郎は、思わず拓也のふりをしてしまい・・・悲しいできごとと、拓郎の優しい嘘をきっかけに、みんながつながっていく。光に真実を告げるため拓郎がとった行動とは・・・そして優しい結末とは・・・



BASURA バスーラ

上映期間：平成21年6月27日（土）～7月24日（金） 24日間
平成21年10月3日（土）～10月16日（金） 12日間
制作年：2009年 製作国：日本
監督・編集：四ノ宮浩
配給：オフィスフォープロダクション

第一作『忘れられた子供たち』の撮影開始から20年。第二作『神の子たち』から8年。貧困と飢餓の中を生きる人間に宿る“命の輝き”を見つめ続けてきた四ノ宮浩監督最新作！マニラ近郊の巨大なゴミ捨て場“スモーキーマウンテン”には、40年以上にわたりゴミを拾って転売することを生業とする2万人以上の人々が暮らしていた。しかし、世界から“貧困の象徴”として注目されることに耐えかねた政府により1995年11月、突如閉鎖されてしまう。生活の場を失った人々に対し政府がスモーキーマウンテンから徒歩10分のところにアロマ仮設住宅を用意するも、住民の大半はその仮設住宅の影に隠れるように作られたあらたなゴミ集積場で以前と変わらぬゴミ拾い生活を続けていた。一方、第一作に登場したクリスティーナやイルミナダ一家は新生活をスタートさせていたが、さまざまな問題を抱えていた……。



忘れられた子どもたち スカベンジャー

上映期間：平成21年6月27日（土）～7月24日（金） 24日間
平成21年10月3日（土）～10月16日（金） 12日間
制作年：1995年 製作国：日本
監督・編集：四ノ宮浩
配給：オフィスフォープロダクション

マニラ市の北に位置し、東洋最大のスラムと称されるゴミ捨て場の街「スモーキーマウンテン」。ゴミの自然発火により年中煙がくすぶるここには、再生可能なゴミを拾って転売する「スカベンジャー」と呼ばれる人々およそ2万1000人が暮らしていた。衛生状態の悪い中、大人にまじって働くたくさんの子供たち。フィリピンにうすまぐ問題と、そこで暮らす人間の力強さを描いた、長編ドキュメンタリー。
*1995年 マンハイム国際映画祭ベストドキュメンタリー賞受賞（ドイツ）
*1996年 地球環境映像祭社会環境映像賞受賞（日本）
*1996年 Encuentros Internacionales de CINEMA ベストドキュメンタリー賞受賞（ポルトガル） ほか

神の子たち

上映期間：平成21年6月27日（土）～7月24日（金） 24日間
平成21年10月3日（土）～10月16日（金） 12日間
制作年：2001年 製作国：日本
監督・編集：四ノ宮浩
配給：オフィスフォープロダクション

1995年に「スモーキーマウンテン」がフィリピン政府により封鎖され、強制退去を命じられたゴミ拾いを仕事とする人々の多くは第2のスモーキーマウンテンと呼ばれる「バヤタスゴミ捨て場」へ移り住んだ。しかし2000年7月に起こった崩落事故により1,000人に及ぶ住民が犠牲となり、政府はこのゴミ捨て場の閉鎖を決定。本編はゴミ捨て場が再開されるまでの4カ月を、12歳のニーニャ一家、妊娠中のノーラ一家、水頭症に苦しむアレックス一家を中心に追う。
*2002年 シネマアンビエンテ国際環境映画祭グランプリ受賞（イタリア）
*2002年 ベルリン国際映画祭正式招待作品（ドイツ）
*2002年 モントリオール国際映画祭正式招待作品（カナダ）

人形芸人ドント&ノット ザ☆ムービー

上映期間：平成21年7月25日（土）～8月7日（金） 12日間
製作国：日本
監督：フナビキアキ
配給：株式会社エスエスエム

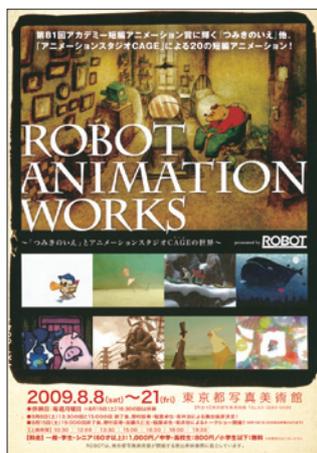
おもちゃ屋を飛び出したちっちゃな人形のでっかい冒険！それはスターへの道！！この劇場版では、これまで放映されていない未公開エピソードに加え、テレビの3分間では入りきらず、お蔵入りしていた長編の感動巨編の数々、さらにドント&ノット結成の秘密に迫る「スクープ！ドント&ノット誕生秘話」を含む、いわば“全部見せます！ドント&ノット”と銘打つべきエピソードがギッシリ。世界が認めた、この夏唯一の「国産手作り人形アニメーション」。
*2004年 SKIP CITY国際Dシネマフェスティバル 川口市民賞 受賞！！
*2004年モントリオール NEW CINEMA AND NEW MEDIA フェスティバル 招待作品



ROBOT ANIMATION WORKS — 『つみきのいえ』とアニメーション スタジオCAGEの世界—

上映期間：平成21年8月8日（土）～8月21日（金） 12日間
配給：株式会社ROBOT

第81回アカデミー賞短編アニメーション賞に輝いた『つみきのいえ』を生み出したのが映像制作会社ROBOTの社内ユニット「アニメーションスタジオCAGE」。『つみきのいえ』の監督、加藤久仁生をはじめ、野村辰寿、稲葉卓也、坂井治の4人の個性と才能を併せ持つアニメーション作家が所属している。TV番組、CM、ミュージックビデオなど、様々な手法のアニメーションを手掛けている。この度、彼らが、制作した短編アニメーションを特集上映した。



utsuroi 写真家18人からのメッセージ

上映期間：平成21年9月19日（土）～10月2日（金） 13日間
製作国：日本
監督：澤野計

「FILMが失くならうとしている」。あるときそんな情報をキャッチしたひとりのFILM Producerは危機的関心を持たざるを得なくなる。そして「FILMを次の世代へ伝えたい」と連動する写真家たちの講堂「ゼラチンシルバーセッション2007」をフォローすることになった。ときに激しく意見がぶつかり合うこととなった、延べ8時間を超える4回のトークセッションを通じて改められた視線から、この時代のこの町を新しく見つめ直そうとする散策がはじまる。



ぼくはうみがみたくなりました

上映期間：平成21年8月22日（土）～9月18日（金） 24日間
製作国：日本
企画・原作・脚本：山下久仁明
監督：福田是久
配給：株式会社コクーン

自閉症の青年と、少し人生行き詰まり気味の看護学生が、偶然から海へ向かうたびに出でしまい、そこで様々な人々とめぐり合うハートウォーミングな人間ドラマ。「自閉症」という名前だけが一人歩きし、実際の症状や接し方など、ほとんど知られていない障害に焦点を当て、自閉症の青年を取り巻く人々の人生や心の成長を、時にユーモラスに、時に厳しく、そして温かく描き出す。



第22回東京国際女性映画祭

上映期間：平成21年10月17日（土）～10月21日（水） 4日間

上映作品：『女ばかりの夜』（監督：田中絹代／日本／1961年／95分）
『田中絹代の旅立ち～占領下の日米親善芸術使節～』（監督：梶山弘子／日本／2009年／40分）
『今、このまががいい』（監督：ブ・ジョン／韓国／2008年／96分）
『母の道、娘の選択』（監督：我謝京子／アメリカ、日本／2009年／85分）
『ビューティフル・アイランズ』（監督：海南友子／日本／2009年／100分）
『カティンの森』（監督：アンジェイ・ワイダ／ポーランド／2007年／122分）
『アンを探して』（監督：宮平貴子／カナダ、日本／2009年／105分）
『赤い点』（監督：宮山麻里枝／ドイツ、日本／2009年／82分）
『東海道四谷怪談』（監督：羽田澄子／日本／1979年／93分）

第22回東京国際女性映画祭 映像が女性で輝くとき			
上映日	上映時間	上映作品	上映会場
10月17日(土)	12:00	女ばかりの夜	今、このまががいい
10月18日(日)	12:00	母の道、娘の選択	ビューティフル・アイランズ
10月18日(日)	12:00	観客員(海外)賞	
10月19日(月)	12:00	アンを探して	アンを探して
10月19日(月)	12:00	赤い点	東海道四谷怪談

実験劇場

ショートショートフィルムフェスティバル & アジア2009

上映期間：平成21年10月22日（木）～10月25日（日） 4日間

- 上映作品：
 『彼の結婚式』（監督：Ho-young Kweon / 韓国 / 2008）
 ＊サンフランシスコ国際アジア・アメリカン映画祭 2009（アメリカ）
 ＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア2009 アジアインターナショナル部門オーディエンスアワード LINE

『LINE』（監督：庄司輝秋 / 日本 / 2007）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009

『ポリウッドの日常』（監督：Sidharth Singh / インド / 2008）

- ＊Osian's Cinefan アジア&ラブ映画祭 2008（インド）
 ＊南アジア国際映画祭 2008（アメリカ）
 ＊インド・ビジョン映画祭 2008（アメリカ）
 ＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009 インド特集

『カプセル』（監督：瀬戸裕介 / 日本 / 2008）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009

『招待』（監督：Yoo Ji-tae / 韓国 / 2009）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009

『18時9分の花』（監督：村松亮太郎 / 日本 / 2008）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009

『ハーフェニス』（監督：落合 賢 / 日本 / 2008）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009 ジャパン部門優秀賞

『カクレ鬼』（監督：齊藤勇貴 / 日本 / 2008）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009 ジャパン部門オーディエンスアワード

『小言』（監督：Jung-yol Choi / 韓国 / 2008）

- ＊大鐘賞映画祭 2008（韓国）最優秀短編映画
 ＊ベルリン国際短編映画祭 2009（ドイツ）
 ＊ロッテルダム国際短編映画祭 2008（オランダ）
 ＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009

『太陽の石』（監督：遠藤潔司 / 日本 / 2008）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009

『深い河』（監督：Guo Jing / 中国 / 2007）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009 FRED ベストアクトレスアワード（Lv Ping）

『Green Film Project『everyday』』（監督：森田淳子 / 日本 / 2008）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009 特別上映作品

『ホテルZ046』（Fu-Hsiang Hsu / 台湾 / 2008）

＊ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2009 アジアインターナショナル部門優秀賞
 ワークショップ：特別講師 丹下紘希氏



電信柱エレミの恋

上映期間：平成21年10月31日（土）～11月27日（金） 24日間

制作年：2009年 製作国：日本
 監督・脚本：中田秀人
 配給：株式会社ニューズベース

- エレミという一本の電信柱が抱いた恋心と葛藤を、手作業の結晶で描いた作品。街のはずれで秘かに灯る、電信柱の静かな“事件”。
 ＊第13回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門「優秀賞」受賞
 ＊第64回毎日映画コンクールアニメーション部門「大藤信郎賞」受賞



オペラ映画フェスティバル2009 ~モーツァルト4大オペラ~

上映期間：平成21年12月5日（土）～12月27日（日） 20日間

配給：ティアンドケイテレフィルム

モーツァルトの代表的なオペラである「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」の4作品を映画化した傑作を連続上映。

- 上映作品：「フィガロの結婚」（監督：ジャン=ピエール・ボネル/指揮：カール・ベーム/演奏：ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/1975年/ドイツ映画）
 「ドン・ジョヴァンニ」（1979 セザール賞 編集賞・美術賞受賞/監督：ジョセフ・ロージー/指揮：ロリン・マゼール/演奏：パリ・オペラ座管弦楽団/1978年/フランス映画）
 「コシ・ファン・トゥッテ」（監督：ジャン=ピエール・ボネル/指揮：ニコラウス・アーノンクール/演奏：ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/1988年/ドイツ映画）
 「魔笛」（1975年 アカデミー賞 衣裳デザイン賞ノミネート、セザール賞 外国映画賞ノミネート/監督：イングマル・ベルイマン/指揮：エリック・エリックソン/演奏：スウェーデン放送交響楽団/1975年/スウェーデン映画）



Sound Horizon 5th Anniversary Movie"Across The Horizon"

上映期間：平成22年1月2日（土）、1月3日（日） 2日間

サウンドクリエイター、Revo主宰の、幻想的な物語を音楽的に表現するアーティスト集団「Sound Horizon」。2009年10月にメジャーデビュー5周年を迎え、その独特な音楽性と世界観により、ますますファン層を拡大し続けています。2009年3月21日横浜BLITSから始まった全国ツアー「Sound Horizon Live Tour 2009 -第三次領土拡大遠征」の集大成となる「第三次領土拡大遠征凱旋記念『国王生誕祭』ライブが6月26日、6月27日NHKホールで2日間行われ、独自の音楽性を突き進むSound Horizonのライブらしく、2日間のライブはまったく別メニューで構成されました。今作品はこの2つの異なる公演を紡ぎ合わせた5周年を記念する映画であり、Sound Horizonが奏でる“観客参加型”のエンターテインメント。

アンリ・カルティエ=ブレッソン 瞬間の記憶

上映期間：平成22年1月5日（火）～1月15日（金） 10日間
制作年：2003年 製作国：スイス+フランス
監督・脚本：ハインツ・バトラー

20世紀最大の写真家 アンリ・カルティエ=ブレッソンがその人生と作品を自ら語る唯一のドキュメンタリー。人前に顔をさらすのを嫌い、自身についてほとんど語ることもなかった偉大なる芸術家が、人生の最期に初めて、その半生と作品について語る。映画は当時93歳のカルティエ・ブレッソン本人と、親交のあった写真家エリオット・アーウィットや劇作家アーサー・ミラーなどの貴重なインタビューで構成されている。撮影の大半は、チュイルリー公園を望むカルティエ・ブレッソンの自宅で行われた。青春のメキシコ、捕虜収容所の脱走、戦時下のパリ、助監督もつとめた映画監督ジャン・ルノワールとの出会い、“マグナム”の仲間たちとの思い出、マリリン・モンロー、ココ・シャネル、トルーマン・カポーティ、サルトルとポーヴォワールら20世紀の“顔”を撮影したエピソード……。そして、ついにカルティエ・ブレッソン本人の口から“決定的瞬間”の謎が明かされる。

生誕100年記念 マザー・テレサ映画祭

上映期間：平成22年1月16日（土）～2月14日（日） 26日間
平成22年3月20日（土）～4月11日（金） 10日間
（平成22年3月31日までの上映日数）

配給：合同会社東風

宗教や人種をこえて、貧しい人々のために生きたマザー・テレサ。1979年にはノーベル平和賞を受賞。1997年に惜しまれながら亡くなるまで、彼女はその行いによって「愛」とは何かを世界中に示し続けました。そして、2010年—マザー・テレサがこの世に生まれて100年。この記念すべき年にその愛に満ちた軌跡を追う国内外のドキュメンタリーを一挙特集上映します。これほど大規模な特集上映は世界初の試みです。名作・新作を交えた珠玉のドキュメンタリーたちが、それぞれの視点からマザー・テレサの愛に満ちた活動の軌跡を見つめます。



上映作品：『マザー・テレサとその世界』（1979年 / 日本 / 監督：千葉茂樹）
『マザー・テレサの祈り 生命それは愛』（1981年 / 日本 / 監督：千葉茂樹）
『母なることの由来』—デジタル復刻版—（1986年 / アメリカ / 製作・監督：アン・ペトリ、ジャネット・ペトリ）
『マザー・テレサの遺言』（1996年 / ドイツ / 監督：マーセル・パウアー）
『母なるひとの言葉』（2004年 / アメリカ / 製作・監督：アン・ペトリ、ジャネット・ペトリ）
『マザー・テレサと生きる』（2009年 / 日本 / 文部科学省選定 / 監督：千葉茂樹）
『すばらしいことを神さまのために～something beautiful For God～』（1969年 / イギリス / 製作・監督：ピーター・シェファー）